

（福）全国手話研修センター（京都市）はこのほど、手話・ろう者に関係する資料を無料で閲覧できる全国初の「手話総合資料室ウェブサイト」（<http://jisls.jp/shiryo/>）を開設した。同センターが所蔵する1万点以上の書籍や映像資料の一部を電子化。各地の貴重な資料が散逸するのを防ぐ。

全国初のろう学校「京都盲啞院」の設立経過や初代院長古河太四郎氏の顔写真などを収めた文献、藤本敏文・全日本ろうあ連盟初代理事長の手話映像などを公開。その文献数は60点、映像資料は20点に

上る。

同センターが全国の関係団体に呼び掛けて収集し、文献は職員2人が1年がかりで2万5,000ページ分をスキャナーで取り込んだ。寄付や助成金などを受けて計1,000万円ほど経費をかけた。

同センターは利用を呼び掛け、「引き続き全国に散逸し収集が困難な資料を集めていきたい」としている。

（福祉新聞・第2762号 2016年5月16日）

文部科学省が4月28日に発表した「2015年度特別支援学校における医療的ケアに関する調査結果」で、15年5月1日現在の特別支援学校在籍者13万3,100人のうち、医療的ケアが必要な児童が8,143人（6%）いることが分かった。

8,143人の内訳は幼稚部46人、小学部4,099人、中学部2,016人、高等部1,982人。必要な医療的ケア（重複あり）は、口腔・鼻腔内吸引など呼吸関係が1

万7,733人、経管栄養など栄養関係が6,044人、排せつ関係が628人だった。小中学校では839人（小学校695人、中学校144人）が医療的ケアを必要としていた。

なお、医療的ケアのために配置されている看護師は、特別支援学校が1,566人、小中学校が350人で、看護師の配置が進んでいない小中学校が多くあった。

（福祉新聞・第2763号 2016年5月23日）

＜特集＞CSRと障害者支援 Part 2

企業のCSR活動と障害者支援の取り組み（萬屋隆太郎）

企業のCSRにおける障がい者支援の意義（高橋陽子）

「企業CSR連携促進」（平成28年度新規事業）の実施について（品川文男）

＜事例紹介＞

福島発 障がい者協働プロジェクト

「魔法のお菓子・ぼるぼろん」への協力（石森昌子）

40年にわたる経験を活かした「Heart & Arts プ

ログラム」～障がい者がアートの力で自分を自由に表現する活動への助成～（山縣麻由）

AIG ジャパングループの取り組み（只友真理）

「地域とハンディキャップ」を会社の方針に（株式会社ファンケル CSR推進事務局）

障害者採用と地域貢献活動（石田 彌）

社会貢献と事業がシンクロした活動～（株）カスタネットの取り組み～（植木 力）

＜資料＞社会福祉・障害福祉関係の助成に関する情報